The Japanese School of Johannesburg NEWS Letter
めざせ！南十字星
7
２０２６(令和８)年
月１７日発行
ヨハネスブルグ日本人学校 学校だより

学校教育目標
国際感覚を身につけ、確かな学力と
豊かな人間性を備えた児童生徒の育成
合い言葉：自立・貢献

令和８年度第１学期 終業式式辞から

校長 石山 秀樹

４月９日の入学式・始業式から６８日間の授業を終え、今日、こうして G1 から G9 までが揃って終業式を迎えることができました。

今日はまずここで、４月から今日までの間の自分を思い出してみましょう。これからいうことを、心の中で数えてください。まず、４月から今日までの１学期の間に、自分が学校で「できるようになったこと」はいくつ挙げられますか。

何故、こんな質問をしたのでしょう？それは、「できるようになったこと」を積み重ねていくことが、成長すること、大人になるということだからです。学校は、大人になって社会に出ていくときのために力をつけるところです。G1 の皆さんにも、入学式で「自分のことは自分でできるようにする」というお話をしました。それが合い言葉の一つ「自立」です。これからも皆さんは、学校でも、家でも「できること」をたくさん増やし、立派な大人を目指しましょう。

もう一つ聞きます。「４月から今日までの１学期の間に、学校や学校の行事で、自分以外の仲間や何かのためにがんばったこと、力を貸したこと」はありますか。

この質問にも、もちろん理由があります。皆さんが大きくなり、大人になったときに出ていく社会は、人と人との繋がりでできています。人は独りでは生きていけませんから、皆さんはそうした周りの人と上手くやっていく力が必要です。だから、私は皆さんに、このヨハネスブルグ日本人学校で「仲間と共にうまくやっていく力」を身につけてほしいと考えているのです。

人は皆、お互いに同じ人間であっても、少しずつ違っています。ヨハネスブルグで暮らしていると、たくさんの人種や民族の人がいることを感じるでしょう。仲間同士でも、顔かたちは勿論、性格や考え方や得意・不得意まで、同じ人はいません。持てる力、できること、能力がそれぞれ違う人が集まって、力を合わせ、「社会」を作っていくのです。

皆さんは、ヨハネスブルグ日本人学校で、毎日友達と一緒に遊んだり、おしゃべりしたり勉強したりできるのはなぜかな、と考えたことはありますか？

皆さんの授業をしたり、行事をしたりするために先生方が頑張っている、というのはもちろんです。でもそれだけではありません。学校を支えるためにお金を管理したり外のいろいろな人と連絡を取ったりしている事務の方、皆さんの登下校を支えるドライバーの皆さん、学校の安全を守るセキュリティの皆さん、みんなが掃除しきれないところを隅々まで掃除してくれるクリーナーさん、校庭などで思う存分遊べるように手入れをしてくれるガーデナーさん。そしてもちろん、皆さんが学校に通うために毎日のお弁当を準備したり、たくさんのお金を払ったりしているおうちの方々。さらに、この南アフリカにいる日本人の皆さんや、遠く離れた日本の国からも、学校は多くの援助をいただいています。たくさんの人が力を発揮し、その力に支えられて、この学校がある。それは、私達の社会とそっくりです。

皆さんもこの１学期、力を合わせてたくさんの取組を成功させてきました。特にそれが発揮されたのは、いくつもの行事や委員会活動です。動物園での全校遠足、ふれあいウィークや野外学習活動、ワンダーランド幼稚園とオルランド子どもの家での交流、毎日毎日、学校生活を良いものにするためにみんなで取り組んでいる委員会活動、どれも、皆さん一人一人が「自分にできることは何か」と考え、「貢献」の力を出し合って成功させてきたのがこの１学期の取組でした。素晴らしい１学期、本当に皆、よく頑張りました。

明日からは、２５日間の長い冬休みとなります。進路選択にかかる G9 諸君は、あまり気の抜けない日々となるかもしれません。そして、今日でヨハネスブルグ日本人学校を去る仲間の、新たな学校での健闘を祈っています。全員、健康と安全に気をつけ、チャレンジのある良い冬休みにしましょう。

JSJ News Blog: JSJ NEWS EXPRESS